

吹田みらいキャンパス START!

新キャンパス開設特集・吹田みらいキャンパス

◎「吹田みらいキャンパス」開設式典を挙 新学部(設置構想中)、新国際学生寮、グラウンド、 クラブハウスを擁する新しい学びのフィールドが始動

10月11日、新キャンパス「吹田みらいキャンパス」で、開設式典を挙
行した。式典には本学関係者に加え、国・自治体、メディア関係者
など約200人が列席。開会宣言後、テープカット並びに芝井理事の
挨拶に続き、前田学長から今後新キャンパスで展開を予定している各
事業構想について説明があった。式典終了後は晴れ渡る秋空のもと、列
席者を対象に施設の各所を案内した。

「吹田みらいキャンパス」は武田薬品工業株式会社所有の研修施設を、
新たに学校施設として活用するもので、2024年4月に国際学生寮「関
西大学グローバルハウス(KU G-House)」が、続いて2025年4月に「ビ
ジネスデータサイエンス学部(仮称・設置構想中)」が開設予定のほか、
グラウンド、クラブハウスなどの運動施設も設置される。施設の特長
を生かして、企業・自治体との連携だけでなく、外国人留学生との
交流、体育会クラブの活動など、多様な人が集い学びあう活気溢れる
環境を創出する。

「吹田みらいキャンパス」という名称には、新たなキャンパスに国内
外から多様な人々が集い、それぞれの「みらい」を描いて欲しいという
願いが込められており、ここで展開される教育・研究・社会連携の実
践が、私たちの社会を豊かにする「みらい」へとつながり、広がること
が期待される。



■「吹田みらいキャンパス」概要
所在地：大阪府吹田市山田南50-2
土地面積：約75,000㎡
延床面積：約27,000㎡



TOPICS 1 「多文化共生社会」を実現し、社会課題を解決へと導く力を育む新国際学生寮 2024年4月「関西大学グローバルハウス」(KU G-House)を開設



人種や国籍、性別や価値観などが異なる学生たちが互いの違いや
考え方を認め合いながら、日常の学生生活を過ごす新しい国際学生
寮を吹田みらいキャンパス内に設置。この寮では、男女別ユニット
に加え、性別を問わないオールジェンダーユニットを設け、すべての

学生に開かれた住みよい環境をめざす。また入寮生を対象に国際教
養を身につけることができる独自プログラムを展開するだけでなく、
「レジデント・アシスタント(RA)」が寮生の一人として、日本での
生活に不慣れな外国人寮生の日常生活のサポートや担当ユニット、
フロアの管理・運営から寮生間の交流を深めるイベントの企画
に至るまで幅広く活躍する。

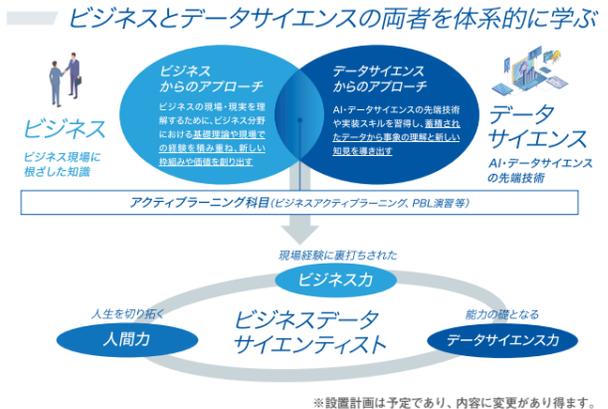
さらに入寮生や学生たちが主体的
にさまざまな活動を発信し、キャン
パス周辺で人と人とのつながりを
生み出すことで、地域に開かれた多
文化交流の拠点としての機能をめざ
す。このような活動を通して、多文
化共生社会の実現に必要な「コミュ
ニケーション力」「問題解決力」
「異文化理解力」などを育む。



TOPICS 2 新たな価値を創造するビジネスデータサイエンティストを育成する本学14番目の新学部 2025年4月 ビジネスデータサイエンス学部(仮称・設置構想中)を新設予定



ビジネスにおいて、データサイエンスとイノベーションを結びつけ、新
しい価値を創出する人材の育成をめざし、実践志向のデータサイエンス
教育を展開する「ビジネスデータサイエンス学部(仮称・設置構想中)」を
新設予定。ビジネスとデータサイエンスを体系的に学び、生きたデータか
ら生きたスキルを身につけ、考動力を高める。



- #### 学びの特色
- ▶文理の枠に捉われないきめ細やかな教育
少人数の手厚い初年次教育(ゼミ等)でビジネスと
データサイエンス双方の基礎知識を修得
 - ▶専門性を深める高度な教育環境
実務家を含めた国内屈指の経験豊かな教授陣による実践志向の専門教育
 - ▶実社会とつながりリアルな学び
企業との連携による実データを活用した実践的な学習や産学連携プログラムへの参画
 - ▶主体的な学びを促すアクティブラーニング科目
ビジネスとデータサイエンスの融合による課題発見・解決能力を身につける実践的学修

卒業後の活躍イメージ

IT産業、メディア産業、製造業、金融業、シンクタンク、コンサルティング会社、ベンチャー企業な
どの幅広い業種への就職を想定。データサイエンティスト、マーケティングアナリスト、政策・戦
略立案者、アントレプレナーなどとして個人や国・地方公共団体・企業内での活躍が期待される。

■学部長就任予定者からのメッセージ

●鷲尾 隆(わしお たかし)
(現：大阪大学産業技術研究所教授)

21世紀は石油に代わって、
データが経済社会の最重要資
源であると言われています。

ビジネスデータサイエンス
学部(仮称・設置構想中)は、データ分析を通し
て社会課題を発掘し、その解決策をデザインす
る実践力を習得することで、デジタル化社会の
ビジネスにおいて躍動する人材の育成を目的と
した日本初の教育機関です。

ビジネスデータサイエンス学部
(仮称・設置構想中) 特設サイト



◎ 文部科学省「大学の世界展開力強化事業(タイプB)」に全国で唯一採択

COIL型教育の成果をもとに 次世代国際教育モデルの開発と展開を促進する



▲11月、IVEC2023でJIGEの設置を宣言した藤田国際部長(ブラジル・サンパウロ)

今年9月、関西大学、東北大学、千葉大学の3大学連携による「Blended Mobility Project (BMX)」で生み出す「Society5.0人材」の育成とそのインフラの創出が文部科学省の令和5(2023)年度「大学の世界展開力強化事業～米国等との大学間交流形成支援～」に採択された。本学が同事業に採択されるのは平成30(2018)年度に次いで2回目。

「Blended Mobility」(以下、BMという。)とは、オンライン教材やオンラインでの交流の機会を従来の「場所」に根差した授業方法と組み合わせた教育へのアプローチを意味する。本学が2014年度から導入し、前回の同事業に採択されたCOIL型教育での経験や成果を活かしながら、オンライン教育と渡航先での教育を有機的に組み合わせた留学制度を整備することで、「Society5.0人材」の育成を推進する。

また、この事業では、3大学が連携し、新たにBMによる次世代国際教育モデルの開発と日本国内全体での展開促進を担うプラットフォーム「JIGE (Japan hub for Innovative Global Education)」を設立。BM教育を担当する教員のトレーニング(キャパシティビルディング)やオンライン型国際教育の促進と効果検証、デジタルの学修証明の国内展開などの事業について、3大学がそれぞれの特長を生かしながら役割を分担する。この事業を通して、国内外の教育交流をさらに発展・高度化させ、連携大学や教育機関などと協力し、質の高い教育プログラムを世界規模で展開する。



◎ 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)「革新的GX技術創出事業」に採択

化学生命工学部・石川正司教授が 低環境負荷・高特性リチウム硫黄電池の開発を始動

化学生命工学部の石川正司教授(関西大学カーボンニュートラル研究センター研究員)が、日本のGHG(温室効果ガス)削減・経済波及効果に対して量的貢献が見込める蓄電池技術の創出を目指し、低環境負荷・高特性リチウム硫黄電池の開発を開始した。

本研究は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の革新的GX技術創出事業(GreX)のうち、「蓄電池領域」の公募テーマ4「軽量・小型・大容量を実現する電池開発」に関する研究として委託されたもの。石川教授チームリーダーのもと、この分野で活発な研究を進める大学や研究所などから15人の精鋭が集結し、電解液などのソフトな電解質を用いた常温動作型リチウム硫黄電池を開発、既存のリチウム電池のおよそ倍のエネルギー密度と長寿命化を目指す。

本電池は理論上、最軽量の密閉型蓄電池なので、ビルの屋上や家庭など従来は難しいとされていたさまざまな場所での電力貯蔵を可能とする。これにより、再生可能電力導入の促進、温室効果ガス低減に寄与するだけでなく、希少金属をほぼ必要としないため、製造時の環境負荷が低いことも魅力となり、開発の加速が期待されている。

●低環境負荷・高特性リチウム硫黄電池

電力貯蔵
都市部に便利

鉛蓄電池は重くてビルの高層に設置できないが、リチウム硫黄電池は軽量の為設置可能

移動体

リチウム硫黄電池の軽量を活かせるドローン航空機

レアメタルなしで可能

◎ 第43回「地方の時代」映像祭2023を開催

地域・地方からわが国のあり方を問う



▲第43回「地方の時代」映像祭コンクール授賞式

関西大学、吹田市、日本放送協会、日本民間放送連盟、日本ケーブルテレビ連盟が共同主催する第43回「地方の時代」映像祭2023が、11月18日～24日、千里山キャンパスにて開催された。今年は285作品の応募があり、34作品(グランプリ作品を含む)が各部門賞を受賞。18日に授賞式、記念講演、グランプリ受賞作品及び参加作品上映会、特別上映やシンポジウムが行われ、19日～24日にワークショップ、受賞作品&予選通過作品上映会、特別上映会などが開かれたほか、12月2日には関西大学東京センターにて、グランプリ受賞作品を語る会が開催された。



▲シンポジウム「危機の時代にメディアはどう立ち向かうのか？」

グランプリには、4月に行われた統一地方選挙に子育てをしながら挑んだ2人の女性議員の姿を通して、日本の選挙や政治、日本社会の今について考えるNHKの作品『立つ女たち～女性議員15%の国で～』が選ばれた。関西大学からは社会学部・齊藤ゼミの「私たちの答え～中国人留學生の学歴と社会～」が市民・学生・自治体部門の奨励賞を受賞した。



▲グランプリを受賞したNHK・細田直樹プロデューサー(右)

◎ 「KANDAI × HOSEI SDGs Weeks 2023」を開催

SDGs達成を目指し、実践知を磨き、考動する



11月20日～12月2日、関西大学と法政大学による「KANDAI × HOSEI SDGs Weeks 2023～実践知を磨き、考動する2週間～」が開催された。

関西大学と法政大学は、SDGsの達成に向けて、それぞれの教育研究の特長を活かしたさまざまな活動を展開している。その一環となる本イベントでは、SDGsの実践に必要な「実践知」を磨き、持続可能な社会の姿について主体的

に考えて動く「考動」するための多様なプログラムを開催。SDGsパートナー企業や団体・自治体の協力により、セミナーをはじめ、レーザーのハギレでパステケースを作る「アップサイクルミシン体験会～ハギレでレーザークラフト～」や、1万本を超えるカーネーションを使って巨大な絵を描く「大阪インフィオーラータ2023」など、参加型イベントやワークショップなどが実施され、各会場は大いに盛り上がった。



▲ハギレでレーザークラフト

▲花絵アート「インフィオーラータ」



▲アクションプランコンテスト表彰式

▲カルティエ ジャパン 宮地社長の講演

また、最終日の12月2日には「SDGsアクションプランコンテスト2023」も開催され、両大学から一次審査を勝ち上がったチーム10組が、SDGs達成に向けたアクションプランを発表。審査の結果、法政大学/関西大学の合同チーム「ガネーシャ」が発表した「インドと日本を結ぶフェアトレード×オーガニックコーヒー」が最優秀賞を受賞した。